

鳥取県衛生環境研究所研究評価の概要

(平成21年度)

平成21年11月20日

鳥取県衛生環境研究所

鳥取県衛生環境研究所では、県政の重要課題や県民ニーズを踏まえた研究活動の活性化を促進し、優れた研究成果を上げるため、平成16年度から県庁組織外部の有識者、専門家による外部評価制度を導入しています。

平成21年度は、平成22年度から新たに実施しようとする研究課題についての事前評価、平成21年度時点で研究途中の研究課題についての中間評価、平成20年度で終了した研究課題についての事後評価を行いました。概要は以下のとおりです。

1 評価方法・評価項目

評価は、研究課題ごとの計画書又は報告書に基づいて、次の区分で実施しました。

● 事前評価

- (1) 評価項目：①研究課題の必要性 ②研究の効果 ③研究計画・研究方法
④研究体制・研究予算 ⑤総合評価
- (2) 対象課題：平成22年度に新規に実施しようとする全ての研究課題（12課題）

● 中間評価

- (1) 評価項目：①研究の実施状況 ②研究の成果 ③研究の効果
④目標達成の可能性 ⑤総合評価
- (2) 対象課題：3年以上の研究期間を有するものについて必要に応じて実施（3課題）

● 事後評価

- (1) 評価項目：①目標の達成度 ②研究の成果 ③研究の効果・成果の実用化
④研究成果の発展性 ④総合評価
- (2) 対象課題：平成20年度で研究期間が終了した全ての研究課題（9課題）

2 評価者

評価者は、保健衛生又は環境に関する専門家で、かつ公正な立場で評価していただける学識経験者と、県民の代表として県民、住民団体、企業等の視点から評価していただける有識者から次のとおり選任しました。（敬称略）

【専門家】

氏名	所属	役職	備考
田中 勝	鳥取環境大学環境マネジメント学科	教授	新任
伊藤 壽啓	鳥取大学農学部獣医学科	教授	新任
野津 あきこ	鳥取短期大学生生活学科	教授	新任
赤尾 聡史	鳥取大学工学部社会開発システム工学科	助教	新任

【県民代表】

氏名	活動・所属団体等	備考
浦木 勝	中海アダプトプログラム実行委員長、NPO法人自然再生センター理事	新任
安本 仁子	鳥取県消費者協会事務局長、消費生活アドバイザー	新任
山本 ルリコ	とっとり環境教育・学習アドバイザー	新任

3 評価の実施期間

平成 21 年 10 月～11 月上旬（ヒアリング実施日：平成 21 年 10 月 6 日（火）、8 日（木））

4 評価結果及び対応

(1) 事前評価

評価対象の 12 課題の評価結果は、別紙 1 のとおりでした。

● 「評価点」について

評価対象 12 課題の評価点の合計は、20 点満点中 14.9～16.4 点（平均 15.5 点）でした。

● 「評価上位」について

どの課題も評価点が平均点前後となっていますが、その中でも未利用資源に関する研究（番号 2）、地下水の保全等に関する研究（番号 9）、排水処理技術に関する研究（番号 10）が上位に位置しており、県内産業の育成に関係する課題や鳥取県の水環境保全といった課題が上位にランクしています。

● 「総合評価」と今後の対応について

10 課題については、総合的に「実施すべきもの」と評価を受け、2 課題（番号 4, 8）については、総合的に「委員の意見等を反映して実施すべきもの」と評価を受けました。

今後は、各評価者の所見、指摘事項等を踏まえて、研究計画をさらに精査した後、来年度の事業化に向かいます。

(2) 中間評価

評価対象の 3 課題の評価結果は、別紙 2 のとおりでした。

● 「総合評価」と今後の対応について

3 課題（番号 1, 2, 3,）について、総合的に「継続すべきもの」と評価を受けました。

今後、各評価者の意見等を踏まえ、目標達成に努めます。

(3) 事後評価

評価対象の 9 課題の評価結果は、別紙 3 のとおりでした。

● 「総合評価」と今後の対応について

6 課題については、総合的評価として「評価 A（優れた研究成果）」でした。

3 課題（番号 5, 8, 9）については、「評価 B（研究成果として概ね適当）」でした。

評価項目全般について、評価者の意見を踏まえ、背景や理由等を検証し今後の研究課題の設定や進捗管理に活かします。

(4) 全般的事項

評価者から研究を実施するに際しての留意点や着眼点等の助言等を頂きました。

課題によっては、実施することの必要性や、調査・監視を続けることの重要性を認めていただいた研究もあり、全般的に評価者からは前向きな評価を多くいただきました。

しかし、課題によっては考慮すべき事項があるとの指摘を受けた課題もあり、評価者からいただいた意見等を踏まえ、見直しを図っていく予定です。

(別紙1)

●事前評価対象課題と評価結果			研究課題の必要性	研究の効果	研究計画・研究方法	研究体制・研究予算	評価点合計	総合評価	
担当室	番号	題名	平均点						
保健衛生室	新規	1	リケッチアの県内実態調査	4.1	4.1	3.6	3.9	15.7	実施すべきもの
食品衛生室	新規	2	魚の未利用資源の利用方法の検討	4.3	4.3	3.9	4.0	16.4	実施すべきもの
	新規	3	八升豆に含まれる機能性成分の検索	4.0	3.6	3.9	3.6	15.0	実施すべきもの
	新規	4	菌糸体を原料とする健康食品中の有害金属調査	4.0	3.6	3.7	3.6	14.9	委員の意見等を反映して実施すべきもの
	新規	5	鳥取県内の温泉・地下水の有効活用のための検討調査(ウォーターニューディールの実現に向けて)	4.3	3.9	3.6	3.6	15.3	実施すべきもの
水環境室	新規	6	東郷池における水草の循環利用システムの構築に資する研究	4.1	4.0	3.9	3.7	15.7	実施すべきもの
	新規	7	中海におけるコアママ場の再生方法に関する研究	4.1	3.9	3.4	3.9	15.3	実施すべきもの
	新規	8	生態系に視点を置いた湖山池の汚濁機構の究明に関する研究	4.1	3.9	3.6	3.3	14.9	委員の意見等を反映して実施すべきもの
	新規	9	鳥取県内の地下水・湧水の水質とその形成・循環に関する研究	4.3	3.9	4.0	3.9	16.0	実施すべきもの
環境化学室	新規	10	排水処理におけるホウ素除去メカニズムの解明と新規排水処理技術の開発	4.1	4.1	3.7	4.0	16.0	実施すべきもの
大気・地球環境室	新規	11	デジタル画像を利用した大気浮遊物質(黄砂や花粉など)の濃度推定方法の研究	4.3	3.9	3.6	3.9	15.6	実施すべきもの
	新規	12	鳥取県内の森林等における大気汚染物質の実態調査	4.1	3.7	3.6	3.7	15.1	実施すべきもの

新規評価対象課題: 12題

(別紙2)

●研究評価対象研究課題一覧

●研究評価対象研究課題一覧				研究の実施状況	研究の成果	研究の効果	目標達成の可能性	評価点合計	総合評価	
担当室		番号	題名	研究期間	平均点					
環境化学室	中間	1	循環資源の環境リスク及び環境安全性に係る品質管理に関する研究	H20～H22	3.7	4.1	3.9	4.0	15.7	継続すべきもの
	中間	2	廃菌床の有効利用に関する研究	H19～H22	4.0	4.3	3.8	4.3	16.5	継続すべきもの
大気・地球環境室	中間	3	黄砂と微小粒子状物質の実態把握に関する調査研究	H20～H22	4.0	4.0	4.0	4.1	16.1	継続すべきもの

中間評価対象課題:3題

(別紙3)

●研究評価対象研究課題一覧

●研究評価対象研究課題一覧				目標の達成度	研究の成果	研究の効果・成果 の実用化	研究成果の発展性	評価点合計	総合評価	
担当室		番号	題名	研究期間	平均点					
保健衛生室	事後	1	鳥由来の人獣共通感染症に関する疫学調査	H20	4.1	3.9	3.7	3.7	15.4	評価A(優れた研究成果)
	事後	2	狂犬病予防対策に関する調査研究	H20	3.7	3.9	3.7	3.7	15.0	評価A(優れた研究成果)
食品衛生室	事後	3	輸入健康食品中の有害物質に関する調査	H20	3.9	3.9	3.9	4.0	15.6	評価A(優れた研究成果)
	事後	4	食品中の化学物質の一斉分析手法の検討及び検索システムの構築	H18~H20	4.1	4.6	4.1	4.3	17.1	評価A(優れた研究成果)
水環境室	事後	5	湖山池におけるカビ臭原因プランクトンの増殖特性に関する研究	H20	3.0	3.4	3.1	3.7	13.3	評価B(研究成果として概ね適当)
	事後	6	中海生態系の長期変動と研究成果の活用方法に関する研究	H19~H20	4.1	4.3	4.0	4.3	16.7	評価A(優れた研究成果)
	事後	7	アマモとサルボウを用いた中海の水質浄化に関する研究	H19~H20	4.1	4.1	3.9	4.0	16.1	評価A(優れた研究成果)
	事後	8	東郷池におけるピコプランクトンの増殖特性に関する研究	H18~H20	3.1	3.6	2.9	3.4	13.0	評価B(研究成果として概ね適当)
環境化学室	事後	9	磁気分離法による環境水等の浄化に関する研究	H18~H20	2.6	3.1	3.3	3.7	12.7	評価B(研究成果として概ね適当)

事後評価対象課題:9題